

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び
高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 徳田裕・東海大学医学部 乳腺・内分泌外科・教授）

研究要旨

2012年1月1日より、乳腺専門医および認定施設では、NCD外科共通基本項目に加えて2階建部分として乳癌登録も必須となった。外科専門医および日本乳癌学会認定乳腺専門医とその研修施設認定制度との連携により、登録施設数および登録症例数は、飛躍的に増加した。2012年の総登録症例数は、72,473例であり、NCD乳癌登録が本邦の乳がん罹患実数に近づきつつある。さらに、2004～2011年に日本乳癌学会乳癌登録（データセンター：NPO日本臨床研究支援ユニット）に蓄積された登録データ255,519例のうち、施設の同意が得られた238,140例（93%）をNCD乳癌登録に移行し、5年ごとに予後調査も継続して行っている。NCD登録移管過去データも、予後解析は、リアルタイムに入力可能であり、すなわち再発、死亡確認時点で入力可能である。2015年より、再発の一次治療の内容についても登録するように改訂された。引き続き10年予後も含めて継続していく予定である。また、施設ごとに予後報告症例のアラートや報告率の提示により、入力率の向上を目指している。登録データの正確性の向上と診療ガイドライン推奨治療の均てん化を目標に、ガイドライン推奨グレードA項目のうち8項目をQuality Indicatorとしてその実施率を算出し、登録施設にfeedbackするシステムを実装した。これにより、登録施設は、自施設の実施率をweb上で確認することができる。

NCD長期予後入力システムにより蓄積された乳癌登録データの解析により著書1件、英文論文7件、San Antonio Breast Cancer Symposium発表1件の成果を報告した。

A. 研究目的

日本乳癌学会が管理していた、乳癌登録の2004年から2011年までの過去分データをNCD-乳癌登録へ移行し、2007～2009年までの5年予後調査、2004年の10年予後調査をNCDのwebシステムを用いて登録を行うシステムの構築と予後情報の入力率向上のための研究を行う。

B. 研究方法

NCDと協力し長期予後の入力システムの開発を行い、さらに入力率向上のためのシステム構築を行う。

NCD-乳癌登録は施設での連結可能な匿名化となっているが、NCDに送られた時点で個人情報削除されており連結不可能な状態である。

C. 研究結果

長期予後入力システムは2015年7月に実装された。現在システムの微調整が終了し、学会ホームページや電子メール等を用いて登録施設への周知を行っている。また、施設ごとに予後報告症例のアラートや報告率の提示により、入力率の向上を目指している。さらに、2017年度末には、各施設診療科長およびデータマネージャー宛のメールにより、直接、予後未登録症例リストを3ヶ月ごとに配信する体制を整備する。登録データの正

確性の向上と診療ガイドライン推奨治療の均てん化を目標に、ガイドライン推奨グレードA項目のうち6項目をQuality Indicatorとしてその実施率を算出し、登録施設にfeedbackするシステムを実装した。これにより、登録施設は、自施設の実施率をweb上で確認することができる。さらに、2017年度より8項目を増やしてfeedbackしている。

NCD長期予後入力システムにより蓄積された乳癌登録データの解析により著書1件、英文論文7件、San Antonio Breast Cancer Symposium発表1件の成果を報告した。

D. 考察

現在、長期予後入力システムは稼働しているが、期限内に各施設からどの程度の入力が行われるかは予想できない。我々は種々の方法を用いて登録施設への周知を行っているが、結果は不明である。2004～2006年は日本乳癌学会が登録業務を行っており、42～57%の予後入力率であった。NCDへ移行したことでこの入力率を改善したいと考えている。

E. 結論

2007～2009年までの5年予後調査、2004年の10年予後調査をNCDのWebシステムを用いてリアルタイムに登録を行うシステムを構築し、2015年7月から実装した。